



＜市民への精神保健に関する正しい知識の普及と啓発＞を目的に「心の健康づくりフェスティバル」は平成7年度に産声を上げました。「心の健康づくりフェスティバル」は“精神的ハンディのある方々が主体的に社会参加できる場”“市民の皆さんが精神保健福祉を身近なものとして考える場”“当事者と一般市民の交流の場”です。未就学の方から社会人の方まで、幅広い方々のご参加をお待ちしています。

「心の健康づくりフェスティバル」メインテーマ

“こんなことを言いたい！伝えたい！”

☆ 当事者からのメッセージ

精神的ハンディのある方々が、自分の言葉でその思いを語ります。
心の声に、共に耳を傾けてみませんか？



講演：「夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年」

講師：中根 允文 先生

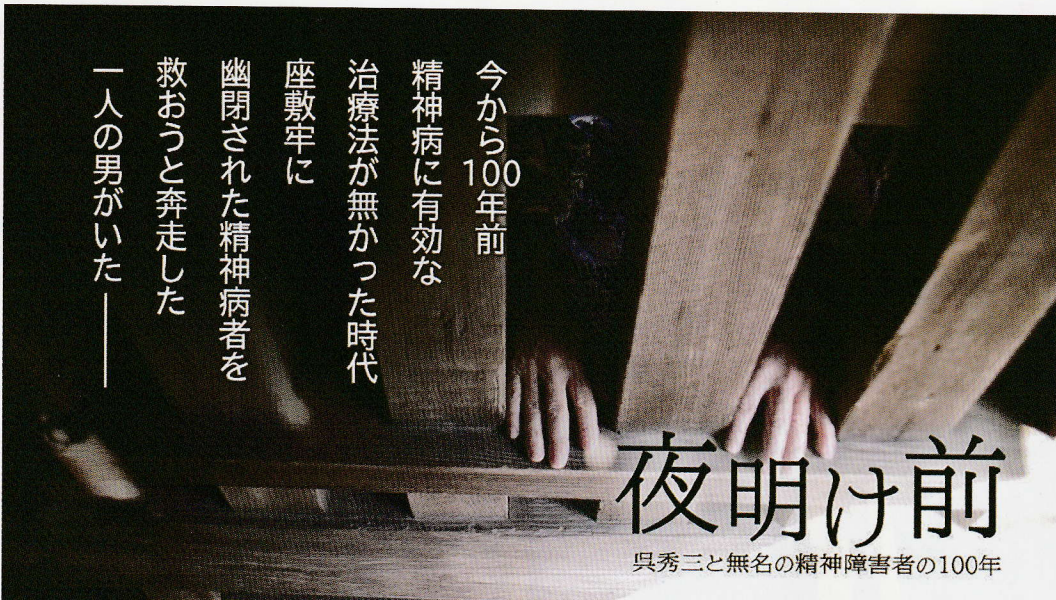
長崎大学名誉教授。1938年生まれ、長崎大学医学部卒。医学博士。1984年に同大学医学部精神神経科学教授(第6代)に就任、精神医学の教育・研究に努め、2003年に退官。長崎国際大学大学院教授を務めた後、医療法人五省会出島診療所所長として地域精神医療に関わっている。長崎原子爆弾被爆者対策協議会理事長、長崎県精神保健福祉審議会長、社会福祉法人長崎いのちの電話理事長、日本うつ病センター理事長、世界保健機関(WHO)共同研究センター長、世界精神医学会役員、国際疫学精神医学協会理事などを歴任。2017年秋、瑞宝中級章受章

上映作品情報

企画 藤井 克徳
監修 広瀬 徹也
プロデューサー 中橋真紀人

監督 今井 友樹
撮影 小原 信之
編集 古賀 陽一
音楽 上野 信一
選曲 姫田 蘭
整音 高木 創
ナレーション 竹下 景子

製作 記念映画製作委員会(公益財団法人日本精神衛生会/きょうされん/有限会社 イメージ・サテライト)



呉秀三(くれしゅうぞう)は、今から百年前の時代に東京大学医学部精神科の教授として、異例の社会的な取組みを進めた先達者である。彼は精神疾患の人々が「座敷牢」に押し込まれる実情を憂い、その解決のために奔走した。その土台となった報告書『精神病患者私宅監置ノ実況及ビ其統計的観察』を1918年に提起し、多方面へ働きかけた。それから1世紀の年月が過ぎた今、精神障害者の問題はどうなっているのだろうか？

古い時代から現在に至るまで、精神病は誤解と偏見、差別の対象となり、この病を持つ人々と家族は苦しみと犠牲を強いられている。2017年12月の「寝屋川市監禁死亡事件」、2018年4月の「兵庫県三田市監禁事件」の報道は、多くの人々に衝撃を与えた。しかし、このような事例はまだ少なからず存在すると関係者は指摘する。こうしたタイミングで、この課題に一貫して取組んできた精神医療保健の専門家組織である公益財団法人日本精神衛生会と、障害者福祉の土台を支えて40周年を迎える きょうされん(旧称：共同作業所全国連絡会)が提携して製作したのが本作である。

